

『舌の制御と知恵』 ヤコブの手紙 3 章 1～18 節

ヤコブは 2 章 17 節で、「**同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。**」と、行いが伴った信仰、生き方信仰について語りました。今回の箇所では、その行いの伴った信仰の一つとして「**ことば**」の問題を取り上げられています。

3 章は、「**舌**」について制御することの大切さと「**舌**」を適切に用いるために必要な知恵について記されています。この 3 章は、12 節で前後に分かれています。

1. ことばで失敗

前半には、「**舌**」を制御することの大切さが語られています。1～2 節に「**私の兄弟たち、多くの人が教師になってはいけません。あなたがたが知っているように、私たち教師は、より厳しいさばきを受けます。私たちはみな、多くの点で過ちを犯すからです。もし、ことばで過ちを犯さない人がいたら、その人はからだ全体も制御できる完全な人です。**」とあります。この「**教師**」を神の御言葉を語る教師のこと、つまり「**牧師**」のことだと思えますが、必ずしも牧師だけのことではありません。勿論、牧師は神の言葉である聖書を神の言葉として解釈し語るわけですから、非常に厳粛さが求められるのは確かです。しかし、それは必ずしも牧師や教師のことだけでなく、イエス・キリストを信じたキリスト者の全てを指していると考えられるのが自然です。というのは、ヤコブはこれまですべてのキリスト者に対して行いの伴った信仰、生きた信仰とはどのようなものかを語ってきているからです。

こうした「**教師**」をはじめとするキリスト者に求められていることは何でしょうか。「**舌を制御する**」ことです。2 節には、「**私たちはみな、多くの点で過ちを犯すからです。もし、ことばで過ちを犯さない人がいたら、その人はからだ全体も制御できる完全な人です。**」とあります。ヤコブがこのように多くの人が「**教師**」になってはならないと語るのには、人は口から発する「**ことば**」で失敗することが多いからです。「**ことば**」で失敗しない人はいないということでしょう。8 節に「**しかし、舌を制することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死の毒で満ちています。**」とある通りです。

箴言の中には、「**舌**」について多くのことが記されています。15 章 1 節「**柔らかな答えは憤りを鎮め、激しいことばは怒りをあおる。**」、12 章 23 節「**賢い人は知識を隠し、愚かな者は自分の愚かさを言いふらす。**」とあります。誰しも、この「**舌**」を抑えられたなら失敗しなかったのに、ということがあるのではないのでしょうか。いったいどうしたらこの「**舌**」を制御することができるのでしょうか。そのためにはまず自分の「**舌**」がどんな災いをもたらすかその影響の大きさをしっかり自覚し、本気になって解決の道を探っていく必要があります。

2. 舌のもたらす影響

4 節から 12 節までには、「**舌**」のもたらす影響がどれほど大きいのかを、いくつかの例えを用いて説明されています。私たちは、次のような二つの特徴を持つ「**舌**」を、立派に制御しなければなりません。第一に、「**舌**」は小さな器官ですが大きな影響を与えるものです。「**舌**」は、馬を御するくつわ、舟を動かす舵、森を燃やしてしまう火、という三つのものに例えられています。

① 馬を御するくつわ

3 節に「**馬を御するためには、その口にくつわをはめれば、馬のからだ全体を思いどおりに動かすことができます。**」とあります。馬は大きくてもものすごい力があります。しかし、そんなに大きくて力のある馬でも、口に「**くつわ**」をかけると、馬のからだ全体を引き回すことができます。「**くつわ**」は本当に小さなもので

すが、その「くつわ」を口にかけるとどんなに大きくて力がある馬でも御することができるのです。

② 舟を動かす舵

4 節に「また船を見なさい。あのように大きくて、強風を受けていても、ごく小さい舵によって、舵を取る人の思いどおりのところへ導かれます。」とあります。この船は風で動く大きな帆船です。帆船は風が吹いてきたら、風になびいて進みますが、そんな時でも「舵」を取る人によって思いどおりに持って行くことができます。「舵」は船全体に比べたら小さなものですが、それがどんなに小さくても、船全体を風に逆らっても動かすことができるのです。

「くつわ」にしても、「舵」にしても、それらは小さなものですが、馬全体を、船全体を動かす力があるということです。同様に、「舌」も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。

③ 森を燃やす火

5～6 節に「同じように、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って自慢します。見なさい。あのように小さな火が、あのように大きな森を燃やします。舌は火です。不義の世界です。舌は私たちの諸器官の中にあってからだ全体を汚し、人生の車輪を燃やして、ゲヘナの火によって焼かれます。」とあります。何気なく、不用意に語った「ことば」が、その人の人生全体を、人格全体をダメにしてしまうことがあります。

なぜ「舌」を侮ってはならないのでしょうか。それは自分や他の人々の人生にこんなにも大きく、破壊的な影響をもたらすからです。では、聖書では何と言っているかというと、創世記には、神は「ことば」によって世界を造られたとあります。神が、「光よ、あれ」と言うと光ができました。また、預言者が神の呪いを発するとそのようになりました。逆に祭司が祝福を祈るとそのようになりました。それは私たちも同じで、「ことば」には重みがあるのです。たった一つの「ことば」が、その人の人生全体に大きな影響を与えてしまうことになります。ですから、「ことば」が正しく用いられないと、自分や他の人々の人生を破壊してしまうことになるのです。

その「舌」を制御することについて 7～8 節では「どのような種類の獣も鳥も、這うものも海の生き物も、人類によって制することができ、すでに制せられています。しかし、舌を制することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死の毒で満ちています。」と言っています。人間は器用に、あらゆる動物を飼いならし、自由に動かすことができます。それなのに、なんとこの小さな「舌」は制御することができません。

3. 舌による方向性

教師がどのような「ことば」を語るかで、それを聞く人々の向かう方向が決まってしまうのです。永遠の救いか、それとも永遠の滅びか。教師は責任の重さを自覚する必要があります。

第二に、「舌」は善悪どちらの言葉も言うことができるものです。9～12 節に「私たちは、舌で、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌で、神の似姿に造られた人間を呪います。同じ口から賛美と呪いが出て来るのです。私の兄弟たち、そのようなことが、あってはなりません。泉が、甘い水と苦い水を同じ穴から湧き出させるのでしょうか。私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりすることができるのでしょうか。塩水も甘い水を出すことはできません。」とあります。賛美か呪いか。甘い水か苦い水か。しかし「舌」自体がそれを生じさせるのではなく、「舌」の動きの背後にその人の意思があることを忘れてはなりません。いちじくの木はいちじくの実を、ぶどうの木はぶどうの実をならせます。自分自身がどんな木なのかを見極めることが大切なのです。このことは、すべての人に当てはまります。

この唇は神を「賛美」するために造られたのであって、神を呪ったり、神にかたどって造られた人を呪ったりすべきではないのです。どうしたら「舌」を制御することができるのでしょうか。

4. 舌を制御する

13 節以降の後半部分では、「舌」を適切に用いるために必要な「知恵」について教えています。「知恵」にも二つの種類があります。一つはこの地上に属する「知恵」で、妬みと利己的な思いから生まれて来ます。それは良い地位を得るために他人より優れたものとなろうとし、邪悪な行いに結びつくのです。

でももう一つの「知恵」は神からの「知恵」で、17 節に「**まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。**」とあります。神からの「知恵」こそ、人を良い木にします。本当の教師とは、このような良い木の種を蒔く人なのです。

① 地上に属する知恵

13～14 節には、「**あなたがたのうちで、知恵があり、分別のある人はだれでしょうか。その人はその知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら、自慢したり、真理に逆らって偽ったりするのはやめなさい。**」とあります。

ヤコブはここで、口から出てくる「ことば」の源になっている「心」が問題だと言っているのです。私たちの「心」にひそかにたまっていることが口から出て、人の「心」をぐさっと傷つけるのです。そこに目を向け解決されない限りは、「ことば」の問題、人間関係の問題は解決しません。「**もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら**」と、言うてはならないようなことを言うてしまうことになるのです。ねたみや敵対心がある時、私たちは悪しき者の影響を受けてしまうのです。確かに、そういう思いで「心」が一杯になっているとき、自分のコントロールから外れてしまうと思わないでしょうか。またそのような時には、どうやって相手を苦しめようかという知恵もどんどん出てくるものです。

② 神からの知恵

15～16 節に「**そのような知恵は上から来たものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです。ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。**」とありますが、そのようなものに支配されてはなりません。そのために、私たちは上からの「知恵」、神の「知恵」に満たされなければなりません。なぜなら、17 節にあるように、「**しかし、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。**」だからです。私たちの「心」が整えられて平安であるとき初めて、私たちは自分の「舌」を制することができるようになり、良い人間関係を築いていくことができるようになるのです。

このことについて、イエス様はマタイの福音書 12 章 34～35 節で「**まむしの子孫たち、おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えますか。心に満ちていることを口が話すのです。良い人は良い倉から良い物を取り出し、悪い者は悪い倉から悪い物を取り出します。**」と言っています。また、マタイの福音書 15 章 18～19 節でも、「**しかし、口から出るものは心から出て来ます。それが人を汚すのです。悪い考え、殺人、姦淫、淫らな行い、盗み、偽証、ののしりは、心から出て来るからです。**」と言われました。つまり、「口」と「心」はつながっていて、「口」は「心」で思っていることを語るということです。であれば、私たちは「口」や「ことば」を直す前に、「心」が癒され、良い物で満たされる必要があります。

5. 解決方法

では、そのためにはどうしたらいいのでしょうか。二つのことが必要です。

① 新しく生まれ変わる

一つのは、イエス・キリストを信じて、霊的に新しく生まれ変わることです。キリストを信じるなら、キリストの平和があなたの「心」を支配するようになるからです。良い物は良い倉から出てくるのです。キ

リストによって新しく生まれ変わり神の愛に満たされた良い「心」からは、だんだん良い「ことば」を話すようになります。それは道徳とか倫理の問題ではありません。あなたの霊、あなたのたましいが罪から救われてきよめられているかどうか、そして、あなたの「心」が神の愛とキリストの平和で支配されているかどうかの問題なのです。

② 新しい性質を身に着ける

もう一つのことは、キリストの新しい性質を身に着けることです。初めて自転車に乗る時に、どうしたらそれを身に着けることができるでしょうか。実際にやってみる事です。どんなに教室で自転車の乗り方を学んでも、それだけでは実際に乗ることはできません。そのためには何度も何度も失敗しながら、実際にやってみなければなりません。そして一旦からだで覚えたら、意識しなくてもできるようになります。それは「舌」を制御することも同じことで、そのためには、「舌」を押さえて悪を言わず、唇を閉ざして偽りを語らないことを実践しなければなりません。

ペテロ第一 3 章 10～11 節には「いのちを愛し、幸せな日々を見ようと願う者は、舌に悪口を言わせず、唇に欺きを語らせるな。悪を離れて善を行い、平和を求め、それを追え。」とあります。もし、あなたが幸いな日々を過ごしたいと思うなら、「舌」を押さえて悪を言わず、唇を閉ざして偽りを語らないようにしなければなりません。

私たちは常日頃、たくさんの誘惑にさらされています。悪いことをされたり、ばかにされたり、自尊心を傷つけられたりします。そのようなとき、私たちはどうしたらいいのでしょうか。これまでは条件反射的に、悪い「ことば」や攻撃する「ことば」を言い返していました。しかし、これからは違います。イエス様の愛が私たちを取り囲んでいます。聖霊の助けによって「舌」を押さえて悪を言わないようにするのです。何度か失敗もするでしょうが、その度ごとに聖霊に信頼して何度も何度も実践するのです。そうすれば、それが習慣となり、やがて、「舌」を押さえることができるようになるのです。

6. 完全な人

ヤコブは 2 節で、「私たちはみな、多くの点で過ちを犯すからです。もし、ことばで過ちを犯さない人がいたら、その人はからだ全体も制御できる完全な人です。」と言っています。この「完全な人」というのは、「大人の人」とか、「成熟した人」という意味です。つまり、初めから「舌」を制御できる人のことではなく、そうした訓練によって習慣化し、それを身に着けることができるようになった人のことを言っているのです。

ヤコブは「舌」のもたらす破壊力について語っていますが、同時に、「舌」が持つ力についても教えています。もし私たちが「舌」を正しく制御するなら、私たちの人生をも変えることができるはずです。私たちに求められていることは、イエス様の御心にかなった「ことば」を語り、それを実践することです。

イエス様は、サマリヤの女に井戸端で語られ、それによって彼女は変わり、さらに彼女を通してサマリヤの町全体が変わりました。

箴言 4 章 23 節に「何を見張るよりも、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれから湧く。」とあります。「舌」を制御することは誰にもできません。けれども、イエス様を信じて、聖霊によって「心」を支配していただき、力の限り、私たちの「心」を見守るなら、そこから「いのちの泉はこれから湧く」のです。私たちも神の御心にかなった「ことば」を発することができるように、上からの知恵に満たされて、自分の「舌」を制御できるように求めていきましょう。

「舌」を正しくコントロールすることは、私たちにとって必要です。私たちはこの「知恵」に欠けていることを認め、「惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神」に謙遜に願い求めましょう。必ずそれは与えられます。